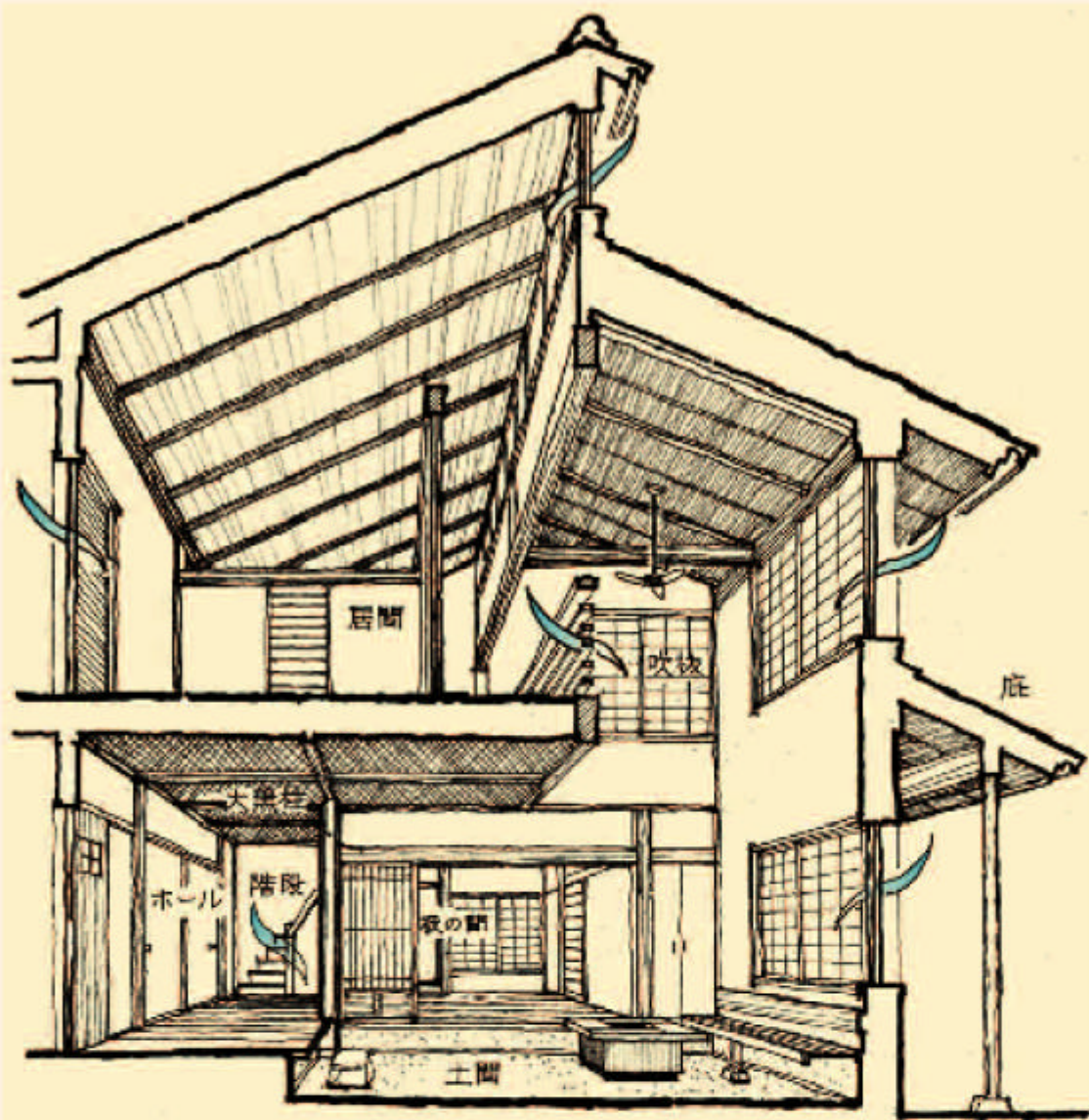


# 春を快適に暮らす秘訣 「風の通り道」を考えた家づくり



## 失敗しない家造り

家造りは三度建てないと上手く出来ないと言われるが、それは何を意味するのだろうか。ひとつは自分の描いていた構想と、出来上がった家とのズレである。

もうひとつは木材や左官などの材料や、職人の技に対する知識のなさや、職人との付き合い方を知らずに造った結果、思うように出来なかったことである。

また家造りの過程のなかで、その都度施主として的確に、判断していくことになっていなかったことである。

三度目ともなると、知識も十分に蓄え、職人との付き合い方も上手になり、結果として満足のいく家になるのである。

しかしながら、一人で三度も家を建てたら、資源の無駄使いとなり、地球環境の破壊行為につながりかねない。住まい手の考えを汲み取って、通り手に伝えることのできるひとがまとめ役となって一度で満足のいく家造りをしなければならぬのである。

## ■プロフィール

よこしま・せいし

株式会社設計事務所代表取締役、昭和22年生。

清水澤工務店設計部を経て昭和61年独立。

主な作品に「湯布院月燈庵」「葉の木の家」「豊川町の家」「風見鶏の家」がある。

<http://www.sowa-net.com/>

近年窓を閉ざしエアコンに頼った家造りが、広く見られるようになった。少し暑ければ冷房、寒ければ暖房というように、窓を開けて調整しようとしない。

エアコンばかりに頼った住まいかたは、地球環境を破壊するばかりである。

SCの家はあまり機械に頼らず外断熱二重通気工法により、住み心地を追及してきた。

冬温かく夏爽やかなSCの家でも忘れてならないのは、春秋の中間期である。この時期は窓を開けて放って外気を取り入れ、風の通り道を作ってあげなければならない。

吹抜や階段をとおした（風の通り道）は、温度差のない家造りに役立つだけでなく、（気配の感じる家）ともなり、家族のコミュニケーションを育む空間でもある。

（風の通り道）を考えると、平面のみでなく断面的にも考える必要がある。吹抜の窓をあけるだけで、自然と風がおこるのである。

自然と調和した家づくりは、日照調整のため軒の出を深くし、湿度調整のため、しつこい珪藻土の土壁、無垢の木、土間、などの調湿作用のある材料を用いて施工することが大切である。欠かせないのは通風や日照への配慮である。